

会 議 録

- 1 会議名
平成28年度 第3回阿賀野市行政改革推進委員会
- 2 開催日時
平成28年9月26日（月） 午後3時00分から午後5時00分まで
- 3 開催場所
阿賀野市役所 別館3階 303会議室
- 4 出席者（傍聴者を除く。）の氏名（敬称略）
 - ・出席：大淵委員長、市村委員長代理、小林委員、小野里委員、太田委員、齋藤委員、
萩委員、関口委員、音田委員（欠席：菅井委員）
（10人中9人出席）
 - ・事務局：市長政策課（中野課長、菅原課長補佐、石井係長）
- 5 議題（公開・非公開の別）
「平成28年度における事務事業評価について（諮問）」に対する答申案について（公開）
- 6 非公開の理由
なし
- 7 傍聴者の数
0人
- 8 発言の内容
議題
「平成28年度における事務事業評価について」に対する答申案について（公開）

委員長： 今日の会議は、先日行った事務事業評価の取りまとめということで、市長への答申内容の取りまとめを行いたい。評価結果は改善1つ、継続6つという内容であったが、継続とはいえ改善の余地があるものについては付帯意見も付いている。この辺も踏まえて、市長に答申したいと思っている。皆さんには活発な議論をお願いしたい。

【自主防災組織育成事業】

評価判定：改善（改善3、継続3、拡大・拡充2、統合・縮小1）

- 委員長：（資料2別表、資料3に基づき、当日の意見について若干の振返りを行う。
以降の事務事業についても進行方法同じ。）
内容について、いかがか。
- 委員：付帯意見の中で「（緊急連絡体制の）市担当課への提出の義務化を検討して
いただきたい」とあるが、少し表現が強すぎるような気がする。
- 委員：「義務化はダメだ」と言われてしまったらおしまいなので、もう少し柔ら
かい表現にしたほうが取り組みやすいのではないか。
- 委員：自治会長としては、義務化と言われると確かに抵抗がある。提出を求め
るとか、そういう文言のほうが柔らかくて良い。
- 委員長：たとえば、「各自治会に対して、緊急連絡体制の作成を依頼する」ではなく
「構築を依頼する」。行政に対して、各自治会でそういう体制を構築するよ
う依頼しなさいという表現にしたほうが良いか。
- 委員：義務化したら行政は確実に我々を守ってくれるのか。
- 事務局：基本はやらなければならないけれども、果たして実行できるかという
手が回らない。過去の災害の例からすると、たとえば道路が寸断されて消
防が行けなかったり、そういうときにいつまでも消防が来るのを待ってい
るかという、そうはいかない。そうしたら一番近くにいる人が安全な方
法で何らかの手助けをしなければならないと思う。
- 委員：「構築を継続するよう努力していただきたい」そんな柔らかい文言にして
ほしい。
- 委員：自主防災組織というのは誰も否定するものではない。「義務化」という表現
だけ修正してもらえればこれで良いかと思う。
- 委員長：「各自治会に対し、緊急時連絡体制の構築を依頼するとともに、各自治会
の事情を踏まえた事業対応を願いたい」という内容でどうか。各自治会の
実情を踏まえた事業への対応をお願いします。
- 委員：そういう答申をした場合に総務課は何をしてくれるのか。
- 委員長：まずは各自治会の実情を踏まえてくださいと。積極的なところとそうでな
いところをたとえば調べますというような対応になると思う。
- 委員：防災に対する意識は誰でも持っている。ただ、どう自治会の皆さんを意識
付けしていくか。それが大前提だと思う。そこら辺で「構築」と「啓蒙」
という言葉が入ったら良いのではないかと思う。
- 委員長：では、事務局とともに今の議論を踏まえたうえで作りたいと思う。細かな
表現についてはお任せいただきたい。

【市営バス運行事業】

評価判定：継続（継続9）

- 委員長： デマンド交通とは、どういう意味だったか。
- 事務局： 公営タクシーとっていただきたい。事前に予約をして、予約されたところに行く。1対1の関係がタクシーで、複数の人を拾ってくるというのがデマンドである。
- 委員長： 何が言いたいかというと、デマンド交通という語いが分かりにくいので、それを何かもう少しよい言葉にできないかと。コメントの中にも、デマンド交通云々というのではない。
- 事務局： 当日の議論の中で出た。皆さんから書いていただいた意見は、バスの小型化というのがほとんど。
- 委員： デマンドというより手を挙げて乗れたら良い。
- 事務局： それも議論に出ていたが、一昨年に、全路線ではないが、確か折居線で、そういう取り組みはやったことがある。ただ、どこでも急に止まったりするから危険だということで、試行で終わってしまった。交通量の少ないところはそれでもいける気はするが、街中でやるとなると難しい。
- 委員長： 私が言いたかったのはデマンド交通の言葉の意味ということだったのだが。カッコ書きでもすることができるか。このままでいいか。
- 委員： 普通の人は分からない。
- 事務局： 主な理由は「現行の取り組みは妥当である」ということで良いのではないか。9人全員が継続とっている限りは、現行の取り組みで良いということ。ただし、ということで付帯意見を付けるべき。
- 委員長： では、主な理由・内容に「現行の取り組みは妥当である」という一文を入れて、付帯意見はデマンド交通という言葉を使わず、「団塊の世代の市民が自家用車からバス利用にスムーズに移行できるような対策と、バスの小型化による無駄のない運行をさらに進めていただきたい」と。
もう少し文言の整理が必要であれば、私と事務局で行うこととする。

【ファミリーサポートセンター事業】

評価判定：継続（継続4、改善2、統合・縮小1、民間1、休止・廃止1）

- 委員長： この事業は随分と判定が割れた。しかし継続という判定なので、主な理由では、どうしてこの事業を継続するかという理由が必要。ただ、継続するにあたってもう少し改善すべきだというのが付帯意見の部分になる。

継続の理由として、「利用者の窓口として市の関与は必要である」と追加してはどうか。付帯意見は「サービス提供会員が増加しないのであれば、関連事業への移行を進めていただきたい」と。他に、知らない人が多い事業であったということであったので「PRが必要である」という意見も入れてはどうか。

事務局： 「利用者の窓口として」と言うが、ファミリーサポートセンター事業そのものが市の事業であるので、市が窓口になるのは当たり前のこと。それが果たして理由になるのかどうか。必要の理由を書きいただきたい。

委員： なぜ必要かと言うと、事業概要に「子育て支援を行う」という記載があるとおおり、子育て支援は必要だと思っている。これが継続の理由。

事務局： 「子育て支援対策としてこの事業は有効である」という言い方でいいか。

委員長： それで良い。

委員： 子どもでなくて、親に対するサポートということで残しておきたいということであった。

委員： 実際の需要は少ないかもしれないが、困った時に相談する場所として必要と思う。市の子育て支援センターで、そういう相談を受け付けるのであれば、ファミリーサポートセンター事業としなくてもよいが。そこが改善とか統合とかという意見。

委員長： では、主な理由・内容は「子育て支援事業の一環として必要である」という内容にしたい。付帯意見は、先ほどのとおおりとする。

【緊急通報装置貸与事業】

評価判定：継続（継続7、改善1、拡大・拡充1）

委員長： 主な理由・内容の欄に「高齢者のみの世帯が増加していることから必要である」と追加したい。付帯意見はどうか。

事務局： 対象者の範囲の見直しの余地があるかどうか。検討が可能かどうか。

委員長： 65歳以上の単身世帯に限るという部分。65歳以上となると、今後どんどん増えていくので、70歳に絞ろうかということもあるかもしれない。

委員： 阿賀町だと75歳以上の一人暮らし。65歳以上の場合には要支援や要介護となっている。見直しというより検討はしてもよいのではないか。

事務局： ポイントは「緊急時の対応が困難と認められる人」というところにある。たとえば70歳にしたとして、65歳から70歳の人が緊急時に対応が困難になった場合に、その人を本当に救わなくていいのか。そういう装置が必要だとなった場合に、年齢で駄目だということを、検討したほうが良い

のか悪いのか。

委員： 頻繁にたとえば年1回とか誰かが状況を見ないといけない。親族でなくて客観的に誰かが。その状態を審査する中で年齢基準を入れるのか廃止するのかという話だけれども、客観的にならないと、あの人は借りられて自分は借りられなかったという話になる。それも1年ごとに見直すくらいはしないと。今がどういう見直しをしているのか分からないが。

事務局： 状態確認をどういうスパンでやっているかということか。

委員： 数字として客観的なものがないと、公平か不公平か判断できない。やはり見直し検討はしてもよいのではないかと思う。

委員長： 「見直し」とズバリ言うよりも、「利用者負担及び対象者範囲の検討」という言い方にしたい。

【スポーツ振興事業】

評価判定：継続（継続7、改善2）

～ 委員からの意見なし ～

【安全安心農産物生産推進事業】

評価判定：継続（継続6、休止・廃止2、改善1）

【環境保全型農業直接支援事業】

評価判定：継続（継続6、改善3）

委員長： この事業は、農協が主導か、農家が主導か、行政が主導なのか。

委員： 農協も推し進めるし、農家もそうだ。酪農家がいる限り堆肥は発生する。だから酪農協と北蒲みなみ・ささかみ農協で酪農家を守るというか、堆肥を使わないと循環できない。農家も本当は使いたいけれども、去年のように災害があると、そこにはお金をかけられないから…補助金をつけていただければありがたい。

委員長： いろいろ絡んでいるのか。たとえば国の政策として推し進めたいというだけでなく、地域的に、たとえば酪農家がたくさんいるので、堆肥の処理のためにも生かしたいというのも要望としてあると。

委員： やはり堆肥の入った田んぼはつぶれにくい。特に安田地区だと砂利を取るから、元に戻すのに5年以上かかる。だからどうしてもたい肥散布は必要になってくるし、必要な事業である。

委員： 地元の酪農家の堆肥を、地元で循環させて使おうという意識はある。

事務局： 環境保全型農業直接支援事業について、主な理由に記載されている「農業者…」以下の文言を、付帯意見にしたらどうか。

委員長： 確かに、当日の話の中でも皆さんそのようにお考えであった。そのようにしたい。その他、意見はないか。

(意見なし)

委員長： では、今出された意見、ここで決めたものもあるしもう少し構築しようと言ったものもあるが、そこは私と事務局で詰めることにする。9月29日に市長に答申となるが、今出された意見を十分踏まえて作りたいと思う。11月にはこの評価結果が広報あがのにも掲載されるので、皆様には目通しをお願いしたい。

【 閉 会 】

9 問い合わせ先

阿賀野市役所 総務部 市長政策課 企画経営係

TEL：0250-62-2510（内線 261）

E-mail：shichoseisaku@city.agano.niigata.jp